

キャンヘルプタイランド

ネットワーク通信

バンコク便り

2014年11月15日発行 第67号

バンコク在住の西川会長から

最近、タイに入国した外国人数のデータを目にしましたので、ご紹介します。2014年9月にタイへ入国した外国人数は約185万人で、前年同月比約7%減となったそうです。前年同月比で見ると、6月24.37%減、7月10.92%減、8月11.85%減と、回復基調にはありますが、減った観光客はまだ完全に戻ってきていないようです。日本人に至っては、9月の入国者数は約109,000人で、前年同月比18.96%減だそうです。5月に起きたクーデターのせいなのか、円安も一因になっているのかわかりませんが、その落ち込みぶりは相当なものです。

先日、タイへ何度も遊びに来ている友人が来て、「クーデターが起きたところまでは知っているけれど、そのあと元に戻ったのか、相変わらずごたごたしているのかよくわからなかった。最近ニュースでも出てこないから大丈夫だとは思ったけど」と言っているのを聞いて、多くの日本人が感じている今のタイに対するイメージが掴めたような気がしました。

実際には、前回の会報でお伝えしたように、クーデター以来平穏な毎日が続いているのですが。現在の軍政は、軍政と言っても、荒々しいイメージはなく、「タイを取り戻す」というスローガンのもと、庶民にも支持されそうな政策を地道に続けている印象です。格差是正のために「相続税」の導入を目指したり、その他今まで野放しになっていた違法行為の取り締まりが強化されたりしています。そのためか、タイに住んでいて軍政に反対する声はほとんど耳にしません。(報道規制のせいかもしれませんが) 来年以降に予定されている総選挙を経て、スムーズに民政移管できるのではと思います。そうすれば、タイに来る外国人も以前の水準に戻るのではと楽観的に見ています。

ただ、不安があるとすれば、一般市民の心を掴むことに失敗すること。例えば、先日バンコク随一のビジネス街シーロム通りで朝から夕方にかけての屋台営業が禁止されました。以前は早朝から通り沿いに無数の屋台が出て付近で働くサラリーマンやOLの胃袋を満たしていたのですが、その日を限りに屋台がぴたりと姿を見せなくなりました。美味しい店が多く、私もそこで朝ごはんを買って職場で食べるが多かったのですが、残念でたまりません。屋台が通行の邪魔になっているからとのことですが、それなら観光客相手の夜の屋台を禁止すればいいのに、と不満をこぼす人も多く、胃袋の恨みは案外奥深いと思った次第です。軍政には、正しい舵取りをお願いしたいものです。

西川弘達

特 集

～チェンマイ滞在記～

今年の7月に7歳のお孫さんとともにチェンマイのカサロンの家に1ヶ月滞在された立山さんから手記が届きましたのでご紹介いたします。

チェンマイにて

チェンマイでの1ヶ月は、あっという間の出来事でした。孫の学校の夏休みに合わせて、私も人生の夏休みをと、昨年より海外で孫と一緒に過ごしています。今年の夏は、縁あって3月にステイさせていただいた「希望の家」での1ヶ月の生活でした。なにせ相棒が7歳の子どもなこと、親元を離れて1ヶ月は長すぎるのではないかと途中でイヤがるのではないかとという心配ごともない訳ではなかったのですが。。私にはどういう訳か、今回は大丈夫！という思いがありました。



1、現地の学校に通うこと

1、帰宅しても多勢の子どもがいること

要するに、遊び相手に困らないということでした。その結果は私の推察通りでした。

朝から晩まで学校や希望の家での友たちと遊び呆ける孫を見るにつけ、現地での学校の宿題や日本の学校の宿題の心配も多少ありましたが、異文化交流の絶好のチャンスと考え、楽しんで見守ることができました。ある時は木の新芽をすすめられて友だちと一緒にかじっていたり、現地は雨季のため田植えの田んぼの中に一緒に入ったりと毎日がとても刺激的で、魅力のある生活のようでした。

又、夏休みを利用して日本からの支援者が次々と希望の家に訪れる時期でもあり、いろいろな人と出会える一期一会の時でもありました。そんな中、希望の家の歴史を描いた「スマイル」の著者である高木智彦氏との交流は印象的でした。なにせ登場人物である役者が私の目の前にほぼ揃ったのですから。彼が今、日本で起業し成功している姿を見るにつけ、ここの地で希望の家建設の為に走りぬいた年月があったからではないかと。。同じ日本人として嬉しくもあり誇りに思える一時でした。

希望の家にステイして2週間が過ぎ、まわりが見られるようになった頃、2階の廊下の棚の中にある2冊の本を見つけて読みました。谷口己三郎氏の手記①「エイズ最前線 タイの若者たちを死の淵から救え」②「熱帯に生きる」を読んで山岳民族の抱える、重く背

負うものの大きさを知ることになりました。「エイズ最前線」ではアメリカの若者が持ち込んだケシの為に麻薬中毒にかかり、HIVにかかり親を失っていく子どもたち。その子どもたちも悪徳人物の為に夜の花売りや売春をさせられ、夜も眠らず商売ができるようにと注射を打たれ働かされるなど、大人たちのエゴの中で生きる子どもたち。当初、谷口氏は農業支援の為にこの地に単独で入り山岳民族を支援する日本人としてはじめての人であったが、麻薬やHIVと向かい合わざるを得ないことになったという。と同時期、大森絹子氏も又、看護師としてタイに来ており、お二人の接点があったようだ。

大森絹子氏は同じ看護師であるタッサニーさんと知り合い、親のない孤児を引き取り面倒をみるようになったこと、日本政府の草の根無援助で希望の家を造るに至ったことのいきさつを、当時、日本に病气療養中の大森先生の許可を得てルポライターとして現地に取材に来ていた高木智彦氏が希望の家完成への過程に巻き込まれていく様子



や希望の家と一緒に生活する子どもたちの様子が赤裸々に鮮明に記録されているものだった。そんな中の何人かの子どもは、今は社会人になり、大学生になり、卒業後、希望の家を支えるメンバーとして働いている人もおり、大変興味深く読ませていただいた。日本からの支援者の中には「スマイル」を読んで希望の家の存在を知り、訪ねてくるようになったという話に興味を持っていたところ「スマイル」の本が希望の家があり、その著者である智彦氏が家族と一緒に近々来るという話に、その前には是非読んでおきたいと一気にページをめくった。

智彦氏は私が帰国する数日前に子ども二人、会社の社員二人を連れてやってきた。事実上の施設運営者であるタッサニーさんとその夫のプラセンさんも彼の訪問を心から喜びいっぴくなく上機嫌で彼の好きだった御馳走が山のように用意されていた。

私が帰国するその日には、スマイルに登場する桃子さんが今度はやってきた。希望の家ができた当時、ここで働きたいと日本からやってきた人物である。希望の家で働きながら日本との連絡の為にインターネットカフェに通っている時知り合ったそこの従業員のタイ人と結婚し、今はチェンマイの町に住んでいるという。そんなまさかの桃子さんの登場には驚いた。60歳を過ぎた日本人が孫と一緒に来ていると聞き、どんな人だろうかと見に来たという。開口一番あいさつもそこそこに私の顔を見てそういうのであった。

希望の家に来た時、犬の名前が「モモ」といい、不思議に思っていたがスマイルを読んだ後その名前の謎が解けた。「桃子」に「モモ」に私の孫の「ももか」。いつもは「もも！」と呼んでいるが、ここでは犬と区別すべきと「ももか！」と呼ぶことにした。子どもたち

も親しみやすいと感じたか「ももか」「ももかちゃん」と呼んでいた。

希望の家の卒業生で大学を出てからスタッフとして働いているソムサックや、今は大学が休みなので希望の家をヘルプするとやってきたミー。ミーはメーファールアン大学で法律を勉強していて、将来は弁護士になりたいという。夢が叶えられるなら後につづく後輩たちの良いお手本になるだろう。タイ国籍取得の為の手続きにも力になってくれるであろう。(山岳民族にはタイの国籍がないこと。移動の自由がないこと。言語が違うなど少数民族ゆえの悲しい現実が今もあること。昔は少数民族とタイ人との結婚は難しかったという。)

そんな中、希望の家の責任者であるタッサニーさんはラフー族出身のプラセンさんと結婚しており、当時としては先進的な考えの持ち主であったと思われる。そのことでも大森先生はタッサニーさんを信用していたという。



希望の家で一番力を入れているのは教育と思われる。これはプラセンさん、タッサニーさんの長年の夢でもある。身近に良き手本となる人がいることは強い。ミーたちのように日本語を勉強している6人の生徒が6人とも将来の夢である専門職(ツアーガイド、薬剤師、軍人、看護師、医者、教師)に就くことは希望の家の彼らに続く後輩たちの光となるだろう。

本当に頑張ってほしい。通訳のムさんから子どもたちの通っている学校は私立学校であること、授業料が高いと聞いていたので、なぜ公立の小学校があるのにと感じていたが。。やはり教育にお金をかけるということは何よりも大切なことと思った。教育は将来の保障になること、財産も親もいない子供たちにとっては唯一の財産であり社会を生き抜く武器である。以前公立の小学校の学校建設に携わっていた時、授業の時間割があるのか？本当に勉強を教える気があるのか？と思わせる程、授業風景が少ないと感じていたが、教師の子どもたちは私学に通っているという話にがっかりし、もう少しやる気を出してよ~と思ったものだった。

最後に、どうか山岳民族のこの子どもたちの未来が明るいものでありますようにと、子どもたちの夢が実現しますようにと、祈らずにはいられない。

私たち二人のステイに協力して下さったキャンのメンバー、心配して途中様子を見に来て下さったムさん、そして、いつも親切にあたたかく迎えて下さったプラセンさんにタッサニーさんはじめスタッフのみなさん、希望の家のお友だちに感謝します。

See you again.

コップンカー 立山 明美

報 告

～奨学金プログラム翻訳会～

今年も11月のお届けを目指して和やかにかつ鋭意実施されている「翻訳会」の様子を報告いたします

奨学金授与式で提出された「申請書」と「奨学生からの手紙」を皆様にお届けする為に、タイ語で書かれている内容を日本語に翻訳する作業が、「タイ人女性の会」の呼びかけで参加頂いた名古屋近郊に在住のタイ人や日本人ボランティアの協力を得て8月から開始されています。

数年前までは、事務所で「翻訳会」と「在宅ボランティアさんへ依頼する翻訳」の両方のご協力を目一杯活用しても年内ギリギリにしかお届けできなかったものが、昨年以降は「タイ人女性の会」のより大きなご協力と奨学金受給者の人数が減少したことにより11月に皆様のお手元にお届けすることができるようになってきました。

「翻訳会」はボランティアの皆さんにキャンの事務所にお集まり頂き、タイ語が翻訳できる人とそれを補助する（タイ語が翻訳できない）人がペアを組み、タイ語ができる人が翻訳したものを、補助する人がより分かり易い日本語にして記入していく事で作業を進めていっています。

申請書や手紙の内容を日本語の文章にするにあたり、日本とタイの風習や文化の違いや学校制度の違いがあるためそれらを補足した日本語を使用するようにしていますが、あらためてその主なものをお知らせしますのでそれらを踏まえて申請書や手紙をお読みいただくことで奨学生や家族の状況をご理解頂く一助にいただければ幸いです。

- ・タイの公立学校は、幼稚園～中学校までが同一敷地内にある等の一貫施設が多い（2年制の幼稚



園～小学校、小学校～中学校、中学校～高校、等があります)

- ・成績評価は4段階(日本は5段階評価の為、奨学生の成績が3.4とか2.9とかは「中程度の成績」ではなく、評価3.2以上は「日本でのオール5」と同じくらい優秀な子で、評価の平均は2.0です)

- ・夏休みは3月下旬～5月上旬にある(その期間子供達はアルバイト、農作業の手伝い、家事を全て担う等をして家族を助けます)



- ・タイでは「家」を継ぐのは、一番下の女の子が一般的(それ以外の兄弟姉妹は家を出て新居を構える、いわゆる「新家」を作ります)

- ・兄弟姉妹や叔父叔母等の「親族」の結びつきが強い(死亡したり出稼ぎをしている親の子供たちを兄弟姉妹が面倒をみて一緒に暮らしている、叔父叔母や祖父母と同居している子供達が多くいます)

- ・名前よりニックネームが一般的に通用している(日本では子供の名前に親の願いがこもっているように、ニックネームも子供が生まれた時に願いを込めて親がつけ子供を呼ぶ時もニックネームを使います)

- ・地域の結びつきが強い(経済的に恵まれない家族を村の人達が仕事を回したりその子供達の学費を学校の先生達が支援したりしている)

- ・地域の中心はお寺と学校(学校やお寺を立派に整備することは村や地域の誇りであり、自慢の種類です)

- ・年長者を敬う事が徹底しています(日本のように軽んじられることなく「年長者」である事だけでとても尊敬されます。そして年長者から見て「良い子」になる事が子供達の目標でもあります)

- ・季節は6～8月の「雨季」と11月～4月の「乾季」、その間の「移行期」しかなく昼間の気温が20度を下回る事はない(日本の「四季」、特に雪や紅葉等寒い時期に対して強い興味を持っています)

このような事を留意しながら、今年の「翻訳会」は11月まで和気あいあいと実施する予定です。皆様も一度お気軽に覗いてみませんか・・・

毎年の申請書と手紙には子供達の状況、思いや希望が一杯詰まっています。

皆様におかれましてはそのような子供達をご支援頂いていることに誇りをお持ち頂くと共に、奨学生に対する励ましや「日本に対する興味」に答えるためにもお手紙や絵葉書をお送り頂ければ奨学生もより喜んでくれる事と思います。

*絵葉書等はキャンの事務局宛にお送り頂ければ、タイ語に翻訳して奨学生の元へ私達から発送させていただきます。

運営委員 松本 記

訂 正

～2013 年度議案書 4 号議案 2014 年予算の訂正～

4 月に行われた総会の議案書に訂正がありましたのでお知らせします。

第 4 号議案の 2014 年予算書タイ支出の奨学金プログラムとすみれ基金の数字が入れ違いになっていました、(太字の部分) お詫びして訂正いたします。

	2013 年度予算	2013 年度実績	2014 年度予算
換算レート	2.80	3.20	3.20
国内収入			
(円) 前年度繰越金	14,701,687	14,701,687	11,282,097
奨学金プログラム	1,300,000	1,100,000	1,100,000
山岳部少数民族支援プログラム	50,000	130,000	100,000
給食プログラム	100,000	175,000	150,000
建設プログラム	50,000	25,000	50,000
図書支援プログラム	10,000	9,000	10,000
基金・指定なし寄付	500,000	422,500	500,000
その他(利息収入等)	3,000	1,891	3,000
ワークキャンプ・ツアー	500,000	0	225,000
会費	200,000	132,000	200,000
計	17,414,687	16,697,078	13,620,097
国内支出			
(円) タイへの送金	5,000,000	5,000,000	5,000,000
会員事業	0	0	0
その他(経費等)	600,000	414,981	600,000
次年度繰越金	11,814,687	11,282,097	8,020,097
計	17,414,687	16,697,078	13,620,097
タイ収入			
(Baht) 前年度繰越金	5,170,479.55	5,170,479.55	4,482,824.40
日本からの送金	1,785,714.29	1,549,437.50	1,562,500.00
奨学金プログラム	0.00	0.00	0.00
給食プログラム	0.00	0.00	0.00
建設プログラム	0.00	0.00	0.00
図書支援プログラム	0.00	0.00	0.00
ワークキャンプ	0.00	0.00	0.00
その他(利息収入等)	50,000.00	58,489.57	50,000.00
会費	1,000.00	1,000.00	1,000.00
計	7,007,193.84	6,779,406.62	6,096,324.40
タイ支出			
(Baht) 奨学金プログラム(Free)	450,000.00	492,838.00	564,000.00
すみれ基金(Free)	378,000.00	297,324.00	290,000.00
山岳部少数民族支援プログラム(Free)	120,000.00	120,000.00	100,000.00
給食プログラム(Free)	80,000.00	0.00	40,000.00
建設プログラム(Free)	1,500,000.00	1,000,000.00	10,000.00
図書支援プログラム(Free)	100,000.00	0.00	3,000.00
ワークキャンプ他ツアー	100,000.00	100,000.00	60,000.00
20周年記念事業	0.00	0.00	0.00
経費他支出	50,000.00	10,420.22	50,000.00
Free 委託費	276,000.00	276,000.00	276,000.00
補正予算	0.00	0.00	0.00
次年度繰越金	3,953,193.84	4,482,824.40	4,703,324.40
計	7,007,193.84	6,779,406.62	6,096,324.40

予 告

～2015年夏ワークキャンプ開催予定～

タイ東部のサツケーオ県の学校から図書館建設の依頼がきました。現在、現地の学校から詳細な見積もりを取り寄せ、運営委員会で建設支援の是非を協議しています。支援決定となりましたら、建設ワークキャンプを復活させたいと思います。来年の夏頃の開催予定ですので、参加ご希望の方は、参加可能な日程等を事務局までご連絡ください。できるだけ多くの方にご参加いただきたいので、可能な限り日程の調整をいたします。



期間は1週間から10日ほどで、参加費は50,000円程度（航空券別）と考えております。

運営委員会

(2014年8月～10月)

活動	月日	場所	内容
運営委員会	8月	メール	メール会議
運営委員会	9月	事務局	奨学金翻訳作業、2015年建設プログラムについて
運営委員会	10月	事務所	奨学金翻訳作業

運営委員募集中！

一緒にキャンヘルプタイランドの運営に参加してみませんか？

通常は毎月第4土曜日に事務局に集まり、会の運営について話し合っています。見学でも結構ですので是非事務所へ遊びに来てください。

次回の運営委員会は **開催日未定のため参加希望の方は事務局までメールでお問い合わせください。**

編集後記

ネットワーク通信第67号の発行が遅れてしまい大変申し訳ありません。

最近、ネットワークの会員が減少傾向にあり、もう少し会員サービスを充実させないといけない思いながらも、会の運営経費節約の為に少しでも安価な印刷方法を探したり試行錯誤して頑張っております。

来年は、ワークキャンプも開催予定ですので、どうぞご期待下さい。

<キャンヘルプタイランドネットワーク通信 Vol.67>

発行 キャンヘルプタイランド
 発行人 西川 弘達
 編集人 坂 茂樹
 発行日 2014年11月15日
 住所 〒450-0003
 名古屋市千代田区名駅南2-11-43
 NPOステーション内
 Tel & fax 052-566-5131
 (OPEN: 土曜の13~16時頃)

E-mail: canhelp@npo-jp.net
 ホームページ: <http://www.canhelp.npo-jp.net>